経営品質賞カテゴリ7情報マネジメント支援コンサルティング

MBAマネジメントと情報システムに精通したコンサルタントが経営品質賞に取り組む企業を支援します

◆カテゴリ7は上位のカテゴリを全て支援するもの

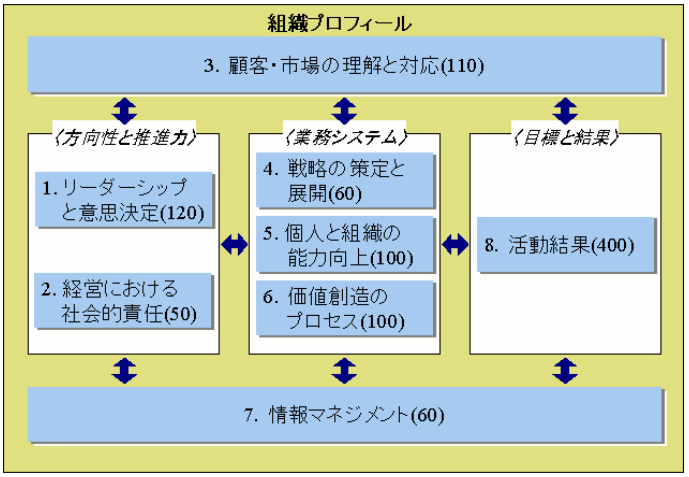
カテゴリ7を単なる情報システムの整備ととらえると日本経営品質賞の趣旨に合いません。カテゴリ7が示す情報マネジメントは全てのカテゴリと密接に関連するものであり、経営品質賞の考え方やフレームワークについて理解した上で情報システムを整備することが不可欠です。しかし、現実にはITベンダーやIT技術者の多くが経営品質賞について知識がなく、コンセプトと実際のしくみが違う状況が次々と生み出されていくのです。しかも**質の低い情報システムほど修正することが困難になっており、支援のためのシステムが経営品質そのものを決定つけてしまうことも少なくない**のです。

◆情報システムの設計こそ経営品質賞の考え方が必要ではないでしょうか

顧客本位、独自能力、社員重視、社会との調和という経営品質賞の四つの基本理念を情報システムにインプットするためには、情報システム化における基本方針として確立しておくことが必要となります。**経営品質賞は評価尺度を示すものでありしくみをつくるためのガイドラインは示していません。**今日においてカテゴリ4、5、6で示されている業務システムを情報システムによって運用している企業がほとんどであることを考えれば、情報システムの重要性は言うまでもないことでしょう。であるならば、情報システムを構築する上での基準となる**情報化計画や概要設計あるいは要件定義に経営品質賞の考え方をインプットしておくことが非常に重要となる**のではないでしょうか。

◆定期的な見直しが不可欠な情報システム

経営品質賞からみて**情報システムが実装しなければならない要件として、成熟度Aで要求される「標準化」と成熟度AAで要求される「改善と学習」があります。**しかし、反対に現状に合わない情報システムが業務を煩雑にし、情報システムのアウトプットが意思決定を混乱させていることが多いのはなぜでしょうか。経営品質賞では変動する経営環境に対してフレキシブルに対応していく生物的な組織体となることを提唱しています。これに対して**情報システムは開発されていまうと固定的になりがちで、経営環境の変化によって「標準化」も「改善と学習」のための機能が逆効果となってしまうことが多い**からです。このような状況に陥らないようにするためにはシステム設計時だけではなく、**定期的に情報システムの有効性についてレビューすることが不可欠である**といえるでしょう。



◆日本経営品質賞プログラムによる経営品質向上に取り組む企業を応援します

当社自身も経営品質協議会のメンバーであり、経営品質賞の認定アセッサー資格を持つシステムコンサルタントがシステムコンサルティングを行います。もちろん、営業力強化やコスト削減といった具体的な経営課題を解決するためのITソリューションのご提案も致します。

杉浦システムコンサルティング,Inc

〒600-8815京都市下京区中堂寺粟田町93 京都リサーチパーク6号館401号

TEL 075 (321) 5528　FAX 075 (315) 8497

Email sugiura@mbox.kyoto-inet.or.jp　HomePage http://www.st.rim.or.jp/~ ryoma